

科目名称：	経済学概論（美術学科）	
担当者名：	西田 敬志	
区分	授業形態	単位数
基礎教育科目	講義	2
授業の目的・テーマ		
<p>日本は資本主義のため、社会に出れば自らお金の問題について向き合う必要があります。  このお金の問題についての最も大きい学問が経済学であり、それを個別の企業に落とし込んだ学問が経営学です。  これらを学ぶことで世界や日本で起きている経済に関する問題が自らに関係あることだと理解できるようになり、  ビジネス社会に出た際に役立つ知識を得ることを目的とします。</p>		
授業の達成目標・到達目標		
<p>①ビジネスに求められる経済学の基礎的な知識を身に付けること  ②新聞やニュースを見て、経済についてある程度理解できるようになること  ③起業する際の手順や注意点を理解できるようになること</p>		

基礎教育科目	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	自己理解を深め目標に向かって主体的に行動するとともに、多様性を尊重し他者との信頼関係を築いていくことができる。	
DP(2)	様々な課題に取り組み幅広い教養を身につけるとともに、変化する社会に対応するための協働的な実践力を身につけている。	○
DP(3)	専門的な知識や技能を修得し、それぞれの分野において、これらを柔軟に活用していくことができる。	

評価方法/ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
全学DP(1)					0
全学DP(2)	60	20		20	100
全学DP(3)					0
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の実務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
あり	《内容1》 税理士 *税理士事務所	《経験年数1》 8年8か月 *19年3か月
	《内容2》	《経験年数2》
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》
備考		

評価ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
経済に関する基礎的な知識を得ること	社会人と経済の話題を対等にできる	経済の話題について、相手の話を理解し、ある程度話せる	経済の話題について、相手の話していることがある程度理解できる	経済の話題が出ても全く分からない

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 経済学の基礎	直近の新聞を読んでおく	15分
第2回 家計の経済学	ミニテスト(家計の経済学)を解く	15分
第3回 企業の経済学	ミニテスト(企業の経済学)を解く	15分
第4回 金融の経済学	ミニテスト(金融の経済学)を解く	15分
第5回 政府の経済学	ミニテスト(政府の経済学)を解く。ディスカッションテーマについて調べておく	15分
第6回 経済学の基礎まとめ(授業内でディスカッションをしながら演習問題に取り組む)	小テストに向け第2～5回のミニテストを復習する。	30分
第7回 経済学の歴史 小テスト	ミニテスト(経済学の歴史)を解く	30分
第8回 日本経済の発展と現状	ミニテスト(日本経済の発展と現状)を解く	15分
第9回 国際経済の仕組み	ミニテスト(国際経済の仕組み)を解く	15分
第10回 日本の財政	ミニテスト(日本の財政)を解く	15分
第11回 経営理念・経営戦略	小テストに向け第7～10回のミニテストを復習する。	15分
第12回 経営戦略の歴史 小テスト	ミニテスト(経営戦略の歴史)を解く	30分
第13回 経営戦略の作り方	ミニテスト(経営戦略の作り方)を解く。ディスカッションテーマについて調べておく	15分
第14回 現代社会の諸課題①(授業内でディスカッションをしながら演習問題に取り組む)	ディスカッションテーマについて調べておく	30分
第15回 現代社会の諸課題②(授業内でディスカッションをしながら演習問題に取り組む)	ディスカッションテーマについて調べておく	30分

事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。  
また、事前事後学修としては、次回までの課題プリント(ミニテスト)をまとめることになる。

#### 成績評価の方法・基準

定期試験は、60%で評価する。その他の評価配分は、以下のとおりである。  
小テスト10%×2回  
ディスカッション10%×2回

#### 課題に対するフィードバック

授業内の小テストは評価し返却する。定期試験は、希望者には事務局を通して返却する。

#### 教科書・参考書

レジュメを配布する